

# バレーボールにおけるアナリストの歴史と変遷

## The History and The Transition of Volleyball Analyst

1K06A153

指導教員 主査 土屋純先生

竹川遼治

副査 矢島忠明先生

### 【バレーボールにおけるアナリストとは】

専修大学教授吉田清司氏の話によれば、バレーボールにおけるアナリストは「バレーボールの技術成績や戦術傾向を調査・分析して、コーチや選手に役立つ情報を提供する専門家。自チームや相手チームの情報を収集・分析し、チームのパフォーマンス向上と勝利に貢献するスタッフ」と定義しているという。

### 【バレーボールにおけるアナリスト誕生】

データを重視してシミュレーション練習をし、試合に臨んだアメリカチームが見事オリンピック優勝を果たしたことにより、バレーボール界ではデータが重視され、情報収集・分析に関するスタッフもそれに伴い重視されるようになっていった。日本バレーボール協会調査部長泉川の調査によれば、日本で最初にアナリストが正式採用されたのは1991年の男子ナショナルチーム大古監督のときである。

### 【アナリストの変遷】

1980年代にコンピュータが普及する以前は、紙で全てのデータを収集し分析しており、莫大な労力がかかっていたが、1982年イタリアでdata volleyが開発されたことでデータ収集・分析が以前より非常に簡単なものになった。前回の北京オリンピックでは男女合わせて24チームが出場したが、そのうちの日本を含めた22チームがdata volleyのユーザーであり、バレーボールのスкауティング活動、そしてアナリストにdata volleyの開発がいまも大きな影響

を与えている。

### 【現在のアナリストについて】

現在のアナリストの基本的役割は情報収集、分析、伝達、フィードバックである。これらの役割を果たすためには、できるだけ多くの情報を効率的に収集する能力、さまざまな視点・角度から物事を見る力、観察力、コミュニケーション能力、強いサポート精神、単調な情報収集・分析作業を根気強く続けられる体力的、精神的タフさが必要である。

### 【早稲田大学バレーボール部におけるアナリストの役割とその業務内容】

主な役割は対戦相手のデータ収集とそのデータを用いた分析、ミーティング資料作りとミーティングでの対策の説明、自チームのデータ収集と分析、試合中にリアルタイムでデータを取り逐一ベンチにデータ、その他気付いた点をベンチに伝えることである。その他に試合全日程終了後に各チームのデータを比較する表を作る、自チームのトータルデータをまとめる、試合映像をDVDに焼き保存するといった作業があげられる。

### 【アタック決定率・効果率とセット勝敗の分析】

分析結果から、関東大学2部男子程度の力の中では、アタック決定率54%、効果率41%という数字を出せば、そのセットを取ることができ、逆にアタック決定率42%、効果率22%という数字を出してしまうとそのセットを落としてしまう

という一つの指標を出すことができる。

**【まとめ】**

データを精選し、監督・コーチ・選手それぞれにどの程度の情報を伝え、どのようにフィードバックしていくのか、そういった能力が今アナリストに求められていることであり、アナリストの役割、責務であると思う。それを果たすことができれば、アナリストの存在意義が証明され、バレーボールにおける情報に関する絶対的な立ち位置を獲得することができ、さらなるバレーボールの発展につながっていくことになる。